

簡易懸濁法研究会誌

The Japanese Journal of
Association for Simple Suspension Method

The next name is

日本服薬支援研究会誌

Journal of
Japan Association for Patient Support on Medication



日本服薬支援研究会公式サイト

<http://fukuyakushien.umin.jp/>

日本服薬支援研究会

巻頭言	倉田なおみ	1
告知	研究会名称変更と事業年度変更についての重要なお知らせ	3
告知	第1回 日本服薬支援研究会／第13回 簡易懸濁法研究会 大会・総会のご案内	4
告知	簡易懸濁法認定薬剤師名簿	8
告知	簡易懸濁法認定指導薬剤師名簿	10
告知	簡易懸濁法認定薬剤師・認定指導薬剤師制度	11
情報	簡易懸濁法認定薬剤師および認定指導薬剤師制度について のQ&A	飯田 純一 近藤 幸男 12
情報	実技セミナー（講演および実習）の開催依頼について	飯田 純一 近藤 幸男 13
報告	実技教育セミナー報告 ～ 第10回簡易懸濁法研究会 実技セミナー in 神戸 ～	天野 学 14
報告	実技教育セミナー報告 ～ 第5回簡易懸濁法研究会 実技セミナー in 金沢 ～	宮本 悦子 16
書籍紹介	秋山 滋男	18
報告	幹事・顧問・事務局	19
報告	組織	20
情報	会則	21
情報	投稿規定	24
編集後記		27

巻頭言

簡易懸濁法研究会改め、 「日本服薬支援研究会」の誕生 ー薬剤師のソコヂカラと将来構想ー

日本服薬支援研究会(簡易懸濁法研究会)代表幹事
簡易懸濁法認定指導薬剤師
倉田 なおみ Naomi Kurata



1997年、胃瘻が閉塞した際に看護師が助けを求めてきました。これがきっかけとなり、簡易懸濁法が誕生します。何度も水温や条件を変えて試験を繰り返して簡易懸濁法の試験法を確立し、学会発表にあたり“簡易懸濁法”と命名しました。字画数が多く書きにくいので、今はもっと簡単な名前にすればよかったと思っていますが、当時は全国に通用する名前になるとは夢にも思いませんでした。初版の「内服薬経管投与ハンドブック」の1200薬品のデータは、1薬品ずつ崩壊懸濁試験、チューブ通過性試験を実施し、エクセルの表を作って1文字1文字入力しました。インターネットがない時代ですので、医薬品の情報は、企業に連絡してインタビューフォームをそろえることから始めました。今思うと気の遠くなるような作業ですが、当時大変と思った記憶はなく、ただ夢中でした。2001年12月31日、初版を発刊することができました。

2007年1月、11名のメンバーが集まり簡易懸濁法研究会が発足しました。第1回の総会&研修会&懇親会は2007年9月28日に前橋市民文化会館で開催しました。まだまだ会員数も少なく不安を抱えての開催でしたが多くの方が参加してくださり、嬉しいスタートを切ることができました。その後も地元の研究会会員、病院薬剤師会、薬剤師会の先生方のお力添えをいただきながら、札幌、長崎、千葉、神戸、新潟、金沢、渋谷、名古屋、品川、品川、仙台と12年間開催してきました。

2013年、会誌第1号を発刊し、その巻頭言に、「簡易懸濁法は薬剤師が活躍する1つの武器となっていますが、簡易懸濁法研究会は単なる経管投薬のための研究会ということではなく、患者さんの体に薬が入るまでを支援する研究会です。薬剤師のみならず、医師、メディカルスタッフ、製薬企業、卸、出版社等研究会の会員は多種多様です。各職種が知恵を出し合い、力を合わせて「服薬支援」に尽力したら、すごいパワーとなります。簡易懸濁法研究会の会員は、お互いの意見を尊重しあいながらも自分の意見が言える、患者のために協力し合えるファミリーです。」と書きました。

そのファミリーも今では750人を超え、昨年の総会時に簡易懸濁法研究会を服薬支援研究会に発展させることが承認されました。1年間その準備を進めて参りましたが、本年9月の総会を機に、簡易懸濁法研究会を改め「服薬支援研究会」として活動を開始いたします。

服薬支援研究会は、「摂食嚥下障害」「運動障害」「健康長寿」「がんケア」「医療安全」「小児」の6部門より構成されます(図1)。「摂食嚥下障害」は簡易懸濁法のみならず、経口投与の際の最適な剤形や服薬の工夫も含みます。今までも紹介してきた片麻痺や関節リウマチ・パーキンソン病、抗がん剤による爪囲炎などでの「運動障害」の服薬についても継続していきます。近年問題となっているフレイル、サルコペニアと関連する栄養管理、また褥瘡や感染予防も含めた活動をするのが「健康長寿」の部門です。つまり薬を服用する患

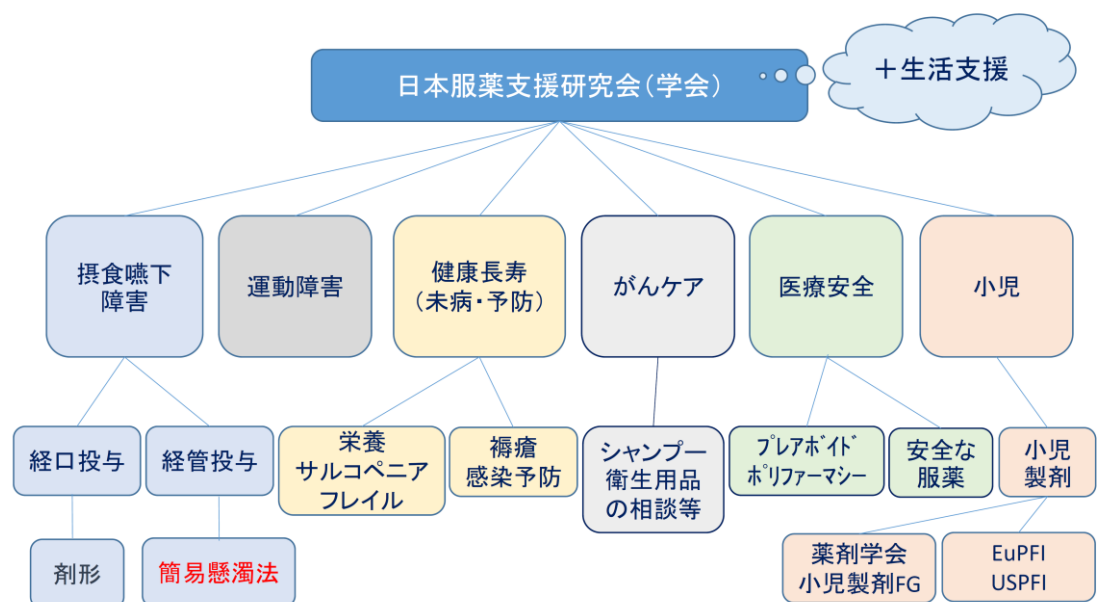


図1 日本服薬支援研究会(学会)構想

者の問題だけでなく、広く未病・予防についても考えていきます。「がんケア」では、薬物治療に関する学会はたくさんありますので、本研究会では多くの患者が悩んでいるシャンプーやマスクなどの生活用品も含めた相談に薬剤師が対応できるような薬剤師支援も行います。薬剤師の在宅医療への参入が求められ、ポリファーマシーやプレアボイド[®]、また患者が安全に服薬するための「医療安全」もますます重要になります。服薬支援は高齢者のみならず小児においても重要です。欧州では小児の剤形としてミニタブレットが研究されておりますが、日本ではまだ活用されておられません。4～8歳児に対する我々の研究において、速崩性ミニタブレット及びゲル化ミニタブレットは、通常のミニタブレットよりも服用しやすいことが示されました。ゲル化ミニタブレットは倉田のアイデアにより製造された剤形であり、欧州にはありません。日本ならではの技術が世界を制するような研究ができればと思います。薬剤学会小児製剤フォーカスグループとともに研究を進めていきます。それ以外にも小児の服薬支援全般について問題を抽出し解決策を見出していきたいと思っております。

簡易懸濁法研究会のファミリーはそのまま服薬支援研究会のファミリーとして、患者のための服薬支援について広く考えながら、医療界における薬剤師の役割を社会に示していきたいと思っております。

今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

日本服薬支援研究会(簡易懸濁法研究会)ホームページのご案内

簡易懸濁法研究会の日本服薬支援研究会への移行に伴い、しばらくの間下記URLのいずれも利用可能となります。

(どちらにアクセスしてもその時点で運用されているホームページに繋がります。)

簡易懸濁法研究会 <<http://kendaku.umin.jp/>>

日本服薬支援研究会 <<http://fukuyakushien.umin.jp/>>

※各ホームページの会員スペースのID/パスワードは同じです。

ID ; kendaku

Password ; 1ssm2psm

なお、会員用メーリングリストの宛先 (kendaku-m@umin.ac.jp) は変更ありませんので
ご注意ください。

令和元年 7 月 1 5 日

日本服薬支援研究会 会員各位
(簡易懸濁法研究会)

日本服薬支援研究会
(簡易懸濁法研究会)
代表幹事 倉田なおみ

研究会名称変更と事業年度変更についての重要なお知らせ

会員の皆さまにおかれましては、時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて、既に会員メーリングリストを通じてお知らせしたところですが、平成30年8月18日に仙台で開催されました第12回簡易懸濁法研究会総会において、研究会の名称変更が承認され、「簡易懸濁法研究会」から「日本服薬支援研究会」へ変更されることとなりました。また、令和元年5月26日に開催されました幹事会において、令和元年6月1日付で日本服薬支援研究会会則が施行となり、事業年度が現行の「4月1日～翌3月31日まで」から「7月1日～翌6月30日まで」へ変更となりました。

これにより、「年度移行期間（平成31年4月1日～令和元年6月30日）」および「令和元年度（令和元年7月1日～令和2年6月30日）」の会費徴収につきましては、下記の通りとお知らせしたところです。会員の皆様におかれましては、重ねてご理解のほど宜しくお願い申し上げます。

なお、ご不明の点は、日本服薬支援研究会（簡易懸濁法研究会）事務局までお問い合わせください。

記

1. 年度移行期間（平成31年4月1日～令和元年6月30日）前に入会の会費
・・・請求済みの平成30年度会費に含む
2. 年度移行期間（平成31年4月1日～令和元年6月30日）中に入会の会費
・・・請求予定の令和元年度会費に含む
3. 令和元年度（令和元年7月1日～令和2年6月30日）の会費
・・・5,000円

※手続き上、令和元年度会費までは旧名称（簡易懸濁法研究会）口座でのご請求となります。
また、ホームページや簡易懸濁可否情報共有システム等に変更はありません。

■お問い合わせ先■

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル 9 階
(株)毎日学術フォーラム内 日本服薬支援研究会（簡易懸濁法研究会）事務局
TEL. 03-6267-4550 FAX. 03-6267-4555 E-mail: kendaku-office@umin.ac.jp

第1回日本服薬支援研究会 第13回簡易懸濁法研究会

大会・総会

2019

9.28^土・29^日

13:30～19:00

9:00～16:30

(懇親会19:10～)

受付 ▶28日(土) 12:30～[1501講義室前]
▶29日(日) 8:30～[1401/1402多目的室前]

会場 北里大学(白金キャンパス) 薬学部1号館
(東京都港区白金5-9-1)

アクセスは以下URLの白金キャンパス(アクセス・キャンパス案内)をご覧ください
<https://www.kitasato-u.ac.jp/jp/campus-guide/sirokane.html>

大会長: 篠原 久仁子(フローラ薬局)

実行委員長: 青木 学一(北里大学薬学部)

スケジュール

28^土

■講演

- ①「合併症を伴う糖尿病患者への服薬支援と糖尿病薬物療法認定制度」 厚田 幸一郎 先生
- ②「病院における簡易懸濁法を用いた服薬支援～北里大学病院の取り組み～」 宮坂 優人 先生
- ③「嚥下障害のリハビリテーション ～体の栄養、心の栄養～」 稲川 利光 先生
- ④「アロマセラピーを用いた服薬支援」 佐藤 玲子 先生 篠原 久仁子 先生

■ポスター発表

■総会／懇親会

29^日

■スポンサードセミナー

- ①「在宅の訪問栄養管理と漢方薬による服薬支援」 篠原 久仁子 先生
- ②「がん患者の栄養管理と漢方薬による服薬支援」 今津 嘉宏 先生

■ポスター発表

- 基調講演 簡易懸濁法研究会から日本服薬支援研究会へ
薬剤師のソコヅカラと将来構想 倉田 なおみ 先生

■簡易懸濁法実技セミナー 定員150名 ※先着順

- 講演 新井 克明 先生 ■実技 興石 徹 先生 秋山 滋男 先生

事前参加 Peatixから申込・事前支払い(8月31日締切)
<http://fukuyaku2019.peatix.com>

演題募集

会員の皆様からのポスター発表を募集します。(8月17日締切)
簡易懸濁法のみならず、服薬支援、患者支援等、幅広く募集します。

会員スペースより演題登録等をご案内致します。

申込先 <https://bit.ly/2Wx5vY4>



テーマ
嚥下障害と服薬支援
入院・在宅から予防まで

[主催] 日本服薬支援研究会(簡易懸濁法研究会)

[共催] 北里大学薬学部、日本くすりと糖尿病学会、日本アロマセラピー学会

[認定単位] 日本薬剤師研修センター認定、日病薬病院薬学認定、日本老年薬学会認定

[簡易懸濁法実技セミナー参加の場合]

簡易懸濁法実技セミナー2単位、日本老年薬学会実習受講証明書(コード11-D)

注) 薬剤師研修センター認定単位をご希望の方は、必ず薬剤師免許番号をご持参下さい。
日本薬剤師研修センター認定、日病薬病院薬学認定はいずれか一方の団体の受講シールのみの交付となります。

参加費 2日間参加の金額(1日参加でも同額)

会 員 当研究会会員 共催学会の会員 北里大学教職員	5,000円 (当日:6,000円)	非会員 一般・教員	8,000円 (当日:9,000円)
賛助会員* 企業	5,000円 (当日:6,000円)	非賛助会員 企業	30,000円 (当日:31,000円)

※1口5名まで(人数を超える場合は非賛助会員と同額)

学 生 1,000円 ※学生証をご持参下さい。

●29日(日)は基調講演への事前参加申し込み者(先着150名)にお弁当、お茶を準備致します。当日参加の場合はご準備できない場合があります。

問い合わせ先

日本服薬支援／簡易懸濁法・研究会 学術大会 実行委員会

担当: 昭和大学薬学部 社会薬学部門 熊木 良太

TEL: 03-3784-8016 FAX: 03-3784-8774

E-mail: fukuyaku.event@gmail.com



～実行委員長からのメッセージ～

嚥下障害と服薬支援 ～入院・在宅から予防まで～

日本服薬支援研究会(簡易懸濁法研究会)幹事
簡易懸濁法認定薬剤師
青木 学一 Manahito Aoki



この度、第1回日本服薬支援研究会／第13回簡易懸濁法研究会 学術大会・総会・簡易懸濁法実技セミナーを2019年9月28日（土）、29日（日）にキャンパスリニューアル工事が完了した北里大学薬学部白金キャンパスにて開催する運びとなりました。

本大会は日本服薬支援研究会としては初めての大会となります。代表幹事の倉田なおみ先生の簡易懸濁法研究会とこれからの日本服薬支援研究会の構想に基づいて「嚥下障害と服薬支援～入院・在宅から予防まで～」という大会テーマに決定しました。本大会では服薬支援に関わる全ての皆様に参加していただきたいと考えております。そのため約1年前から幹事メンバーで企画しました。

9月28日（土）は北里大学病院 薬剤部長の厚田幸一郎先生、同薬剤部の宮坂優人先生に入院患者さんの服薬支援について、原宿リハビリテーション病院の副院長である稲川利光先生には、嚥下障害のリハビリテーションについて、湘南ホスピタルの佐藤玲子先生と大会長（フローラ薬局）の篠原久仁子先生には、アロマセラピーを用いた服薬支援（アロマ製剤実習）をそれぞれご講演いただきます。

9月29日（日）は、午前の部として漢方薬による服薬支援について、薬剤師の立場から篠原久仁子先生に、医師の立場から芝大門いまづクリニックの今津嘉宏先生にご講演いただきます。また、倉田なおみ先生には基調講演として「簡易懸濁法研究会から日本服薬支援研究会へ 薬剤師のソコヰカラと将来構想」について、ご講演いただきます。そして午後の部では、正しい簡易懸濁法を皆様に普及していただくために講義（新井克明先生）および簡易懸濁法実技セミナーを実施いたします。実技セミナーは定員を150名としていますので是非とも事前予約してご参加下さい。ポスター発表は2日間にわたり実施されますので、服薬支援に関わるたくさんのご応募をお待ちしております。さらに29日（土）には参加者の皆様との交流を深めていただくための懇親会を北里大学学生食堂にて開催いたします。この記念すべき学術大会・総会に、ぜひとも多くの皆様にご参加いただきますようお願い申し上げます。

会場：北里大学薬学部 1号館（白金キャンパス）
1401／1402多目的室、1501講義室ほか

<アクセス>

恵比寿駅（JR・東京メトロ日比谷線）東口下車、
徒歩15分または田町駅行 都バス「田87」系統で約7分、北里研究所前下車
広尾駅（東京メトロ日比谷線）天王寺橋方面（出口1,2番）下車、徒歩10分
田町駅（JR）、三田駅（都営地下鉄浅草線・三田駅）
三田口下車、渋谷駅行 都バス「田87」系統で約15分、北里研究所前下車
白金高輪駅（東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線）
恵比寿方面（出口3）番、徒歩10分



**第1回 日本服薬支援研究会／第13回 簡易懸濁法研究会 大会・総会
総会・研修会・ポスター発表・懇親会(9/28)、実技セミナー(9/29)**

大会テーマ：嚥下障害と服薬支援 ～入院・在宅から予防まで～

日時：2019年9月28日(土)、29日(日)

会場：北里大学薬学部 1号館4階多目的室ほか

受付：9月28日 12:30～、9月29日 8:30～ 1号館4階1401・1402多目的室前

主催：日本服薬支援研究会(簡易懸濁法研究会)

大会長 フローラ薬局 篠原 久仁子、実行委員長 北里大学薬学部 青木 学一

共催：北里大学薬学部、日本くすりと糖尿病学会、日本アロマセラピー学会

協賛：日本老年薬学会

後援：東京都薬剤師会、東京都病院薬剤師会、神奈川県薬剤師会、神奈川県病院薬剤師会、
千葉県薬剤師会、千葉県病院薬剤師会、埼玉県薬剤師会、埼玉県病院薬剤師会、茨城県薬剤師会、
茨城県病院薬剤師会、群馬県薬剤師会、栃木県薬剤師会、栃木県病院薬剤師会、日本在宅薬学会

認定単位：日本薬剤師研修センター認定、日病薬病院薬学認定、日本老年薬学会認定単位

簡易懸濁法実技セミナー参加の場合：日本老年薬学会「実技11-D」、簡易懸濁法研修会認定(2単位)

注)薬剤師研修センター認定単位をご希望の方は、必ず薬剤師免許番号をご持参下さい。

日本薬剤師研修センター認定、日病薬病院薬学認定は、いずれか一方の受講シールのみの交付となります

9月28日(土)プログラム

13:00～13:20 代表幹事挨拶 倉田なおみ 先生、大会長挨拶 篠原久仁子 先生(1501 講義室)

13:20～13:50 講演1「合併症を伴う糖尿病患者への服薬支援と糖尿病薬物療法認定制度」(1501 講義室)
北里大学薬学部・教授/日本くすりと糖尿病学会理事長 厚田 幸一郎 先生

13:55～14:25 講演2「病院における簡易懸濁法を用いた服薬支援
～北里大学病院の取り組み～」(1501 講義室)

北里大学病院薬剤部 宮坂 優人 先生

14:30～15:30 講演3「嚥下障害のリハビリテーション ～体の栄養、心の栄養～」(1501 講義室)
原宿リハビリテーション病院 筆頭副院長 稲川 利光 先生

15:40～17:10 講演4「アロマセラピーを用いた服薬支援(アロマ製剤実習)」(1603 多目的室)
湘南ホスピタル 佐藤 玲子 先生、フローラ薬局 篠原 久仁子 先生

17:15～18:00 ポスター示説(奇数番号)、企業展示 (1604 多目的室)
(ポスター発表、企業展示、アロマの蒸留実演)

18:15～19:00 総会 (1501 講義室)

19:10～21:00 懇親会(2号館 学生食堂)

※13:00～18:00までは、1604多目的室にてポスター展示、企業展示を開催します。

※ポスター発表申し込み：発表者のみ日本服薬支援研究会(簡易懸濁法研究会)会員に限ります。

内容：簡易懸濁法のみならず、服薬支援、患者支援等、幅広く募集します。

申込先：<https://bit.ly/2Wx5vY4> ⚡切 8月17日



9月29日(日)プログラム

9:00～10:50 スポンサーセミナー:漢方薬による服薬支援 (1401・1402 多目的室)

「在宅の訪問栄養管理と漢方薬による服薬支援」

フローラ薬局 篠原 久仁子 先生

「がん患者の栄養管理と漢方薬による服薬支援」

芝大門いまづクリニック 今津 嘉宏 先生

共催:松浦薬業株式会社

10:50～11:35 ポスター示説(偶数番号)、企業展示(1604 多目的室)

11:45～12:45 基調講演 (1501 講義室)

「簡易懸濁法研究会から日本服薬支援研究会へ 薬剤師のソコチカラと将来構想」

日本服薬支援研究会・代表幹事 倉田 なおみ 先生

共催:アボット ジャパン株式会社

12:45～13:00 写真撮影(1501 講義室)・トイレ休憩

13:00～16:30 簡易懸濁法実技セミナー(1501 講義室)(定員 150 名 ※先着順)

13:00～14:30 「嚥下障害患者への服薬支援 ～経管投与を中心に～」

大洗海岸病院薬剤部 新井 克明 先生

14:30～16:30 簡易懸濁法・実技(1401・1402 多目的室)

東京医科大学八王子医療センター薬剤部 奥石 徹 先生

東京薬科大学薬学部 秋山 滋男 先生

16:30 閉会

※9:00～13:40 までは、1604 多目的室にてポスター展示、企業展示を開催します。

※29日は基調講演への事前申し込み者(先着 150 名)にお弁当、お茶を準備致します。

当日参加の場合はご準備できない場合があります。

※参加費:2日間参加の金額(1日参加でも同額)

会員(簡易懸濁法研究会会員、共催学会の会員、北里大学教職員)5,000 円 (当日:6,000 円)

非会員(一般・教員)8,000 円 (当日:9,000 円)

賛助会員(企業)1口5名まで(人数を超える場合は非賛助会員と同額):5,000 円(当日:6,000 円)

非賛助会員(企業)30,000 円 (当日:31,000 円)

学生:1,000 円(学生証をご提示下さい)

※実技セミナーの参加定員は 150 名です。

※事前参加申込方法(Peatix): <http://fukuyaku2019.peatix.com>

から申込・参加費支払い。事前参加申し込み〆切: 8月31日

事前参加申込できるようになりましたら、簡易懸濁法研究会のホームページよりご案内致します。



問い合わせ先 日本服薬支援/簡易懸濁法・研究会 学術大会 実行委員会

担当: 昭和大学薬学部 社会薬学部門 熊木 良太

E-mail fukuyaku.event@gmail.com

電話:03-3784-8016 FAX:03-3784-8774

「簡易懸濁法認定薬剤師名簿」

簡易懸濁法認定薬剤師名簿

2019年1月7日現在の簡易懸濁法認定薬剤師は下記の通りです。

記

【2018年度認定者】 11名			認定日 2018年12月1日
簡易懸濁法研究会会員番号	認定者氏名	勤務地都道府県	
7060131474	米田 正明 (ヨネダ マサアキ)	茨城県	
7062131436	根本 尚子 (ネト ナコ)	宮城県	
7062131500	佐々木 優 (ササキ ユウ)	愛媛県	
7063131053	田井 達也 (タイ タツヤ)	香川県	
7064131089	久保田 忍 (クボタ シノブ)	熊本県	
7065130072	岩田 慎 (イワタ マコト)	愛知県	
7065130168	春日井 公美 (カスカイ クミ)	神奈川県	
7065130287	江嶋 祐樹 (エジマ ユウキ)	福岡県	
7065131059	那須村 久恵 (ナスムラ ヒサエ)	熊本県	
7068131263	飯山 教好 (イヤマ リョウ)	静岡県	
7069130784	昆 真生 (コン マサオ)	神奈川県	

(敬称略・会員番号順)

【2017年度認定者】 6名			認定日 2017年12月1日
簡易懸濁法研究会会員番号	認定者氏名	勤務地都道府県	
7060130118	飯塚 倫子 (イヅカ ミチコ)	千葉県	
7064130132	毎田 千恵子 (マイタ チエコ)	石川県	
7064131357	佐々木 直子 (ササキ ナコ)	静岡県	
7068130725	小原 総一郎 (コハラ ソウイチロウ)	東京都	
7068131274	熊井 梢恵 (クマイ シガエ)	群馬県	
7069130568	中島 美紀 (ナカシマ ミキ)	大分県	

(敬称略・会員番号順)

【2016 年度認定者】 13 名		認定日 2016 年 12 月 1 日
簡易懸濁法研究会会員番号	認定者氏名	勤務地都道府県
7068130059	朝倉 寛達 (アサクラ ヒロシ)	山梨県
7067130067	高橋 喜久子 (タカハシ キコ)	宮城県
7065130083	浜田 茂明 (ハマタ モアキ)	徳島県
7065130135	岡 敦子 (オカ アツコ)	広島県
7068130576	志田 里志 (シタ リシ)	山形県
7062130642	熊木 良太 (クマキ リョウタ)	東京都
7063130775	中田 いちこ (ナカダ イチコ)	石川県
7067130818	川本 健裕 (カワモト ヨシヒロ)	香川県
7065130919	宮東 利恵 (ミヤヒガシ リエ)	石川県
7065130975	金原 寛子 (キンハラ ヒロコ)	石川県
7064131034	長嶋 フクエ (ナガシマ フクエ)	福岡県
7063131075	青木 学一 (アオキ マナヒト)	埼玉県
7067131259	田中 朋子 (タナカ トモコ)	徳島県
(敬称略・会員番号順)		

【2015 年度認定者】 4 名		認定日 2015 年 12 月 1 日
簡易懸濁法研究会会員番号	認定者氏名	勤務地都道府県
7065130317	古川 俊子 (フルカワ トシコ)	愛知県
7065130362	興村 桂子 (オキムラ ケイコ)	石川県
7060130709	鳥谷部 翔 (トリヤベ ショウ)	青森県
7060130798	井上 貴之 (イノウエ タカユキ)	愛媛県
(敬称略・会員番号順)		

「簡易懸濁法認定指導薬剤師名簿」

日本服薬支援研究会 生涯教育委員会

簡易懸濁法認定指導薬剤師名簿

2019年4月1日現在の簡易懸濁法認定指導薬剤師は下記の通りです。

記

所属	認定者氏名	認定番号
昭和大学薬学部 社会健康薬学講座 社会薬学部門 客員教授	倉田 なおみ	1
医療法人渡辺会 大洗海岸病院 薬剤部長	新井 克明	2
フローラ薬局 代表取締役	篠原 久仁子	3
東京薬科大学 薬学部 実務実習教育センター 講師	秋山 滋男	4
霧島市立医師会医療センター 薬剤部 副薬剤部長	岸本 真	5
吉備高原ルミエール病院 薬剤科長	安藤 哲信	6
社会福祉法人有隣病院 薬剤科長	近藤 幸男	7
特定非営利活動法人 健康 環境 教育の会 (NPO HEART)	宮本 悦子	8
岸和田徳洲会病院 薬剤部	藤原 琴	9
徳島文理大学薬学部 医療薬学講座 准教授	石田 志朗	10
済生会横浜市南部病院 入退院支援センター	飯田 純一	11
東京医科大学八王子医療センター 薬剤部	興石 徹	12
岐阜薬科大学 実践薬学大講座 病院薬学研究室 教授	寺町 ひとみ	13
兵庫医療大学 薬学部医療薬学科 教授	天野 学	14
東京理科大学薬学部 医療安全学研究室 教授	小茂田 昌代	15
株式会社システムヨシイ データ事業部 次長	世良 庄司	16
徳島大学 大学院医歯薬学研究部 臨床薬理学分野 准教授	座間味 義人	17

(敬称略・認定番号順)

計17名

以上

簡易懸濁法認定薬剤師・認定指導薬剤師制度

日本服薬支援研究会 生涯教育委員会

日本服薬支援研究会では、簡易懸濁法に関する正しい知識を有する会員を育成するため、2015年1月より認定制度を開始しました。認定を取得することで簡易懸濁法の知識と技術について、研究会が認めたレベルを保持していることが証明されます。また、施設や地域で簡易懸濁法を推し進める際の説明にも役立つばかりでなく、その普及に係わることでご自身の薬剤師としての存在価値を高めることができます。

1. 認定制度の種類と要件

認定には、所属施設内の普及活動を行う「簡易懸濁法認定薬剤師」と、地域などでの普及活動を行う「簡易懸濁法認定指導薬剤師」の二種類があり、認定要件等が異なります。また、申請時点において日本服薬支援研究会会員であり、会費を完納している必要があります。

【簡易懸濁法認定薬剤師】

目的	簡易懸濁法の所属施設内の普及活動を行う
認定要件と検定料	
実技セミナー	主催および共催の実技セミナーを5年間に以内に2回(4単位)以上受講していること
e-ラーニング	研究会ホームページに掲載の認定薬剤師用e-ラーニングから簡易懸濁法実技動画を視聴し、レポート(1,000字程度)を提出すること
学会発表	日本服薬支援研究会学術集会または他の学術集会等において簡易懸濁法等の服薬支援に関する学会発表を1回以上行っていること
検定料	5,000円
申請期間(2019年度)	申請期間:2019年9月 受付開始予定

【簡易懸濁法認定指導薬剤師】

目的	簡易懸濁法の地域などでの普及活動を行う ※実技セミナーにおいて、講師/指導を行うためには簡易懸濁法認定指導薬剤師である必要があります
認定要件と検定料	
実技セミナー	日本服薬支援研究会主催および共催の実技セミナーを5年間に以内に1回(2単位)以上受講し、ファシリテーターとし準備から片付けまでセミナーに参加し進行の詳細を学習して把握できていること
e-ラーニング	研究会ホームページに掲載の認定指導薬剤師用e-ラーニング(実技セミナー映像使用課題)を終了し、レポート(1,000字程度)を提出すること
学会発表	日本服薬支援研究会学術集会または他の学術集会等において簡易懸濁法等の服薬支援に関する学会発表を2回以上行っていること あるいは学術論文等を投稿していること
実務経験	申請時において、薬剤師としての実務歴5年以上およびそれに相当する経験年数を有すること(大学教員等を含む)
その他	実技試験検討中(認定指導薬剤師2名による確認等)
検定料	10,000円
申請期間(2019年度)	申請期間:2019年9月 受付開始予定

2. 認定取得までの流れ(簡易懸濁法認定薬剤師の場合)

a. 実技教育セミナーの受講と学会発表

日本服薬支援研究会主催または共催の実技セミナーへの参加(2回)と、服薬支援に関わる学会発表(発表演者)を行ってください。

発表学会は毎年開催される日本服薬支援研究会学術集会かその他の学術集会で構いません。

b. e-ラーニングの視聴

日本服薬支援研究会ホームページで公開されている簡易懸濁法映像(2本)を視聴してください。

c. 申請

簡易懸濁法認定薬剤師申請書類に必要事項を記入の上、申請期間中に事務局に提出してください。日本服薬支援研究会 生涯教育委員会にて審査後、本人宛に通知いたします。

d. 認定者名簿への登録

ご本人からの掲載取り下げのご要望がなければ、日本服薬支援研究会ホームページの認定者名簿に追加いたします。

e. 認定の更新

認定は5年間有効です。認定期間内に日本服薬支援研究会主催および共催の実技セミナーを1回以上受講することで、認定期限の3か月前に更新申請の受付を行います。

全国で統一した簡易懸濁法を実施するための認定制度です！

簡易懸濁法認定薬剤師および認定指導薬剤師制度についての Q & A

日本服薬支援研究会 生涯教育委員会

委員長 近藤 幸男

飯田 純一

Q1. 簡易懸濁法認定薬剤師および簡易懸濁法認定指導薬剤師を目指したいのですが、制度の概要をどこで確認できますか？

A1. 簡易懸濁法認定制度の概要は、日本服薬支援研究会ホームページ（以下、ホームページ）に掲載しております。ホームページを通じて情報公開しています。

Q2. 認定の申請受付はいつですか。

A2. 毎年、9/1～9/30が申請受付期間になります。

時期が近くなりましたら、ホームページで情報公開します。また2019年9月からは、認定指導薬剤師の受付も始まります。

Q3. 日本服薬支援研究会主催および共催の実技セミナーの単位は、どこを見れば確認できますか。

A3. 研修会修了書または参加証にセミナー単位認定修了印を受けている研修会が対象になります。

具体的な点数は、会員ホームページ内の簡易懸濁法認定制度の「認定単位一覧」に掲示しています。

【簡易懸濁法認定薬剤師の方】

Q4. 認定薬剤師がどのような施設で実技セミナー（講義や実習）を実施することができますか。

A4. ご自身の施設内に限り、実技セミナー（講義および実習）ができます。

近隣施設やグループの施設の方などを受入れて、ご自身の施設内で合同の実技セミナーを実施することは、問題ありません。なお、依頼による他施設での実技セミナーや講演は、**認定指導薬剤師**の認定を受けてから実施して下さい。

なお、実技セミナーの開催依頼は、ホームページの「実技セミナー（講義および実習）の開催依頼」で情報公開しています。

Q5. 認定薬剤師が使用可能な説明用資材の提供は頂けますか。

A5. 資材提供はHPの認定薬剤師欄に、基礎編の実習内容のスライド資料およびビデオ、配布資料などを用意しています。

【簡易懸濁法認定指導薬剤師を目指す方】

Q6. 申請要件のファシリテータに参加したいのですが、どこで確認できますか。

A6. 日本服薬支援研究会主催の実技セミナー開催時に募集致します。

認定薬剤師のファシリテータ募集は、ホームページで情報公開し、会員用MLでもご案内を予定しています。実技セミナー参加費は免除とします。恐れいりますが、交通費および宿泊費などはご自身で手配して下さい。

Q7. 学会発表は2回以上となっています。その2回以上は**認定薬剤師**の申請で提出した1回が含まれるのでしょうか。

A7. 含みます。

その際に2回目の発表は、「**認定指導薬剤師**にふさわしい内容かどうかを考慮致したい。」と考えます。

Q8. 認定指導薬剤師用のe-ラーニングは、どのように受講したらよろしいでしょうか。

A8. e-ラーニングは、2019年度中に公開を予定しています。

（2019年5月31日）

実技セミナー（講演および実習）の開催依頼について

日本服薬支援研究会 生涯教育委員会

委員長 近藤 幸男

飯田 純一

地域薬剤師会などで実技セミナーの開催を希望される場合は、下記の確認事項を事前にご検討いただき、原則 6 か月前までに日本服薬支援研究会事務局までご連絡して下さい。その後、ご相談させて頂きながら、講師派遣など調整いたします。

どうぞ、宜しくお願い致します。

記

確認事項

1. 開催人数

2. 開催内容

1) 研修会の形式

① 講義 ② 講義および実習

2) 研修時間

ご希望に合わせて調整いたします。ただし、簡易懸濁法認定制度の「認定単位対象となる実技セミナー」は、講義1時間および実習2時間以上（正味）が必要要件となります。また、認定制度単位の発行を希望する参加者は、日本服薬支援研究会会員（3,000円）、非会員（5,000円）が必要になりますご希望に合わせて調整いたします。

3) 実習を行う場合

- ① 具体的な参加予定人数をご提示下さい。複数人のファシリテータが必要となる場合があります。
- ② 実習資材の準備は、日本服薬支援研究会で行います。なお、材料費として参加者一名につき500円を徴収致します。
- ③ 会場のレイアウト図およびフロアの見取り図の提出をお願いします。4名で1グループを基本と考え、資材を置く机や椅子などが必要です。

4) 講師派

講師派遣料、交通費、宿泊費については個別にご相談させていただきます。派遣 交通の手配などお願い致します。

以上

（2019年5月31日）

実技教育セミナー報告

～ 第10回 簡易懸濁法実技セミナー in 神戸 ～

日本服薬支援研究会(簡易懸濁法研究会)幹事
簡易懸濁法認定指導薬剤師
天野 学 Manabu Amano



簡易懸濁法研究会は、「第10回 簡易懸濁法実技セミナー in 神戸」を2019年2月24日(日)兵庫医療大学にて開催いたしました。参加者数は38名で、構成は病院薬剤師、薬局薬剤師でした。参加された方には、10時30分から16時30分までの間、5時間少々の間、講義を聴いていただきながら、ほぼずっと実習を行っていただきました。



まず、本会代表幹事 倉田 なおみ 先生から開催の挨拶がありました。その後、私が当日のオリエンテーションを行いました。

引き続き、昼過ぎまで約2時間 懸濁液の配合変化に関する実習「構造から推論する懸濁液の配合変化2」を行っていただきました。この実習は、昨年行った企画のPart 2になります。昨年同様、清水 忠 先生(兵庫医療大学)が実習室内で講義をし、橋本 佳奈 先生(兵庫医療大学)と私が、参加者の方へ行う実習に

ついて指導するというスタイルで行いました。

タイトルに記述した構造というのは構造式のことです。この時間帯は、構造式から簡易懸濁を行った時の変化について推論することで、その影響への対処について考えるようになっていただくという企画でした。この時間帯は、薬剤どうしが関与する変化はもちろんのこと、使用した容器の変化、薬剤の添加物の関与などを用意した薬剤などを題材に学んでいただきました。このような内容のため、実習室のスクリーンは構造式が多数表示される状況でした。構造式は、構造式アレルギーという言い方をされる方もあるように、馴染みにくいと思う方もあると思います。しかし、会終了のアンケートの結果をみると、わかりにくかったというご意見はほぼない状況でした。

この後休憩を取り、13時15分から16時30分まで簡易懸濁法の講義と実習を受けていただきました。まず、約1時間、倉田 なおみ 先生による「簡易懸濁法の基礎」に関する講義がありました。倉田先生は、お話される直前まで講演の内容を吟味されていました。このように、いつものことではあるのですが、基本的な内容でも見直しをしたうえで話をされています。参加された方も、新しい知識が増えた方が多くいらっしゃったと思います。



この後、参加者の方には今回のメインイベントである実習を行なっていただきました。用意されたテキストに従い約2時間、簡易懸濁法の手技を基礎から学んでいただきました。簡易懸濁法研究会では、基本的なテキストを用意しており、これをもとに実習を組み立てています。簡易懸濁法研究会主催の実習は、概ね2時間のコースとなることが多いのですが、その内容はすこしずつ変えています。また、メインのタスクフォースも簡易懸濁法認定指導薬剤師の方の中からお願いするようにしています。今年は、メインのタスクフォースを徳島大学の座間味 義人 先生にお願いしました。実習の際、時には倉田 なおみ 先生やその他のスタッフの方々がコメントをはさみながら、楽しい実習ができたと思っています。ご参加者の方は熱心の実習をされ、実技内容についてメモを取ったり、スマートフォンなどで写真や動画撮影をしたりされる方もおられました。



以上の通り参加者の方々の熱心な取り組みのおかげをもちまして、「第10回 簡易懸濁法研究会実技セミナー in 神戸」は無事終了いたしました。参加いただいた方々、および運営に協力いただいた方々には、心より感謝いたします。「正しい簡易懸濁法が普及するためには、正しい知識を持った人から実技を学ぶ必要があります」、微力ではありますがこれを学ぶ機会をご提供できたのではないかと考えております。

来年も兵庫県内でセミナーを開催する予定です。来年は、企画を新たにして開催したいと考えています。その際は、今回参加されなかった方はもちろん、今回参加された方も参加いただきますようよろしくお願いいたします。

実技教育セミナー報告

～ 第5回 簡易懸濁法実技セミナー in 金沢 ～

「私を信じて力を込めて」

特定非営利活動法人 健康環境教育の会(NPO HEART)
日本服薬支援研究会(簡易懸濁法研究会)幹事
簡易懸濁法認定指導薬剤師
宮本 悦子 Etsuko Miyamoto



第5回簡易懸濁法実技セミナーin金沢はこの時期には珍しく雪のない穏やかな日に開催されました(北陸大学薬学部実験科学棟;平成31年3月10日)。セミナーは「輸液の基礎, 輸液の調製の実際」,昼食をはさんで「簡易懸濁法講義・実技」の2部構成の内容で6時間の長丁場を参加者44名が熱心に取り組まれました。

前半の「輸液」では久しぶりの電解質等の計算に頭をひねり, 実技では輸液製剤の進歩のおかげですっかり少なくなっている混合操作に取り組んでいただきました。今回は初めて看護師の方の参加があり, 手技のレベルの違いに「あなたは薬剤師ではないですね」との倉田先生の声に, まわりの薬剤師が思わず頷くという光景があちこちで見られました。傷バンが必要なハプニングもありましたが, アンブルカットも含めて基本操作をすべて個人実習でやれて良かったとの感想をいただき, プログラムに組み込んで良かったとほっとしております。



後半は倉田先生の講義で始まり, 簡易懸濁法の基礎に加えて最近の製剤への対応, 誤接続防止コネクタのに関する医療安全情報の資料とともに実物のシリンジ, チューブの紹介もあり, 90分間たっぷりの内容でした。参加者の皆さんは先生の勢いに引き込まれて食後の眠気もふっとんだ様子でペンを走らせておられました。

今回の実技実習は「正しい簡易懸濁法」の普及を目指す研究会の考えを踏まえ, 基本の項目で構成されましたが, 「倉田話芸」を楽しみながらの実習となりました。クイックバッグの使用ではパナルジン錠の担当者が乳棒で亀裂を入れ, 湯を加えて放置したバッグを持ち上げてチューブを接続しバッグを丸めていくと思わ

ぬ硬さに戸惑い, 他班の様子見している状況に, すかさず倉田先生から「私を信じて, 力を入れましょう」と声がかかり, 無事に通過したときの安堵感は全員の笑いに変わりました。続いて, 他の参加者も水を使ってクイックバッグを実践, 通過の感触を確認し納得されていました。緊張の中にも楽しみながらのセミナーは最後にエパデールで底の抜けたカップを確認し, 「はい, 予定を5分超過しましたが, 本日のスケジュールはすべて終了しました」との倉田先生の終了宣言で拍手とともに無事に終わることができました。

終了後、看護師の方からは実際にいろんな薬を体験できてよかった、これからも1年に一度位は学習しないといけないですねとの感想をいただきました。また、2度目の参加者の方からは、講義も実習も進化していて楽しかったと嬉しい声が聞かれました。最後はあわててアンケート記入（全員が良かったと回答）と、バス出発までの短い時間も惜しんで質疑応答などあっという間の6時間が過ぎました。



北陸新幹線の開業と同時にスタートした簡易懸濁法実技セミナー in 金沢は5年目を迎えることができました。これまで北は青森、南は沖縄と全国から延べ238名の方々に参加をいただき感謝いたしております。それぞれの職場でセミナーでの経験が活かされますことを願っております。

今回、看護師の方にも参加をいただき、目標の多職種連携へと第一歩を踏み出すことができました。この間、北陸にも5名の認定薬剤師が誕生しました。小規模ながらも研鑽、情報交換の場として、皆さんの声を聴きながら、今後も続けていきたいと思っております。

この5年間、年度末のお忙しい時期にも関わりませず、雪のときも金沢へ足を運んでくださった倉田なおみ先生、秋山滋男先生には心より感謝いたします。また、薬剤師生涯教育の一環としてセミナー開催に尽力いただいております北陸大学に深謝いたします。



書籍紹介

簡易懸濁法研究会 広報委員会 秋山 滋男

日本薬剤師会監修の雑誌「調剤と情報」は、会員の皆様もご存知の方が多いと思います。この「調剤と情報」の2019.3 (Vol.25 No.4)から「すきま時間の臨床薬学講座」の連載が開始されました。この企画は、本研究会代表幹事の倉田なおみ先生がなされております。

3月号をちらりと見てみると、バイアスピリン錠とバファリン配合錠の特徴や相違が掲載されています。毎月間ではありませんが、薬剤の視点から考える服薬指導は非常に役に立つ情報です。ぜひ、会員の皆様にもご一読いただき、現場でご活用ください。

○ 雑誌：調剤と情報



編著：日本薬剤師会／監修 じほう／編

定価：1700円＋税

【新連載】

患者向けリーフレット・指導箋のなぜ？がわかる すきま時間の臨床薬学講座
分解されやすい薬剤たち
今野 勉，倉田 なおみ

報告 ～ 幹事・顧問・事務局 ～

- | | | | |
|----------|----------------------|-----|-----|
| 1. 代表幹事 | 昭和大学薬学部 | 倉田 | なおみ |
| 2. 副代表幹事 | 大洗海岸病院薬剤部 | 新井 | 克明 |
| | 徳島文理大学薬学部 | 石田 | 志朗 |
| 3. 幹事 | NPO HEART | 宮本 | 悦子 |
| | 吉備高原ルミエール病院薬剤科 | 安藤 | 哲信 |
| | 岸和田徳洲会病院薬剤部 | 藤原 | 琴 |
| | 有隣病院薬剤科 | 近藤 | 幸男 |
| | 兵庫医療大学薬学部 | 天野 | 学 |
| | フローラ薬局 | 篠原 | 久仁子 |
| | 東京薬科大学薬学部 | 秋山 | 滋男 |
| | 霧島市立医師会医療センター薬剤部 | 岸本 | 真 |
| | 徳島大学大学院医歯薬学研究部 | 座間味 | 義人 |
| | 株式会社システムヨシイ | 世良 | 庄司 |
| | 岐阜薬科大学 | 寺町 | ひとみ |
| | 東京医科大学八王子医療センター薬剤部 | 輿石 | 徹 |
| | 済生会横浜市南部病院 入退院支援センター | 飯田 | 純一 |
| | 北里大学薬学部 | 青木 | 学一 |
| | 昭和大学薬学部 | 熊木 | 良太 |
| 4. 顧問 | 益田赤十字病院薬剤部 | 西園 | 憲郎 |
| | 鳴門山上病院薬剤科 | 賀勢 | 泰子 |
| | 徳島文理大学薬学部名誉教授 | 岡野 | 善郎 |
| | 東京理科大学薬学部 | 小茂田 | 昌代 |
| 5. 事務局 | 毎日学術フォーラム | | |

2019 年 6 月時点

報告 ～ 組織 ～

1. 会計部 安藤 哲信、藤原 琴、世良 庄司、座間味 義人
2. 総務部 石田 志朗、近藤 幸男、新井 克明、青木 学一、
 熊木 良太
 - ・ 規約委員会 近藤 幸男、安藤 哲信、世良 庄司、
 倉田 なおみ
3. 広報部 ・ 会誌委員会 秋山 滋男、岸本 真、寺町 ひとみ
 - ・ HP 委員会 世良 庄司
4. 学術部 ・ 学術集会委員会 学会開催地幹事、総務部
 - ・ レポーター係り 座間味 義人
 - ・ 生涯教育委員会（簡易懸濁法認定制度）
近藤 幸男、天野 学、篠原 久仁子、藤原 琴、
飯田 純一、青木 学一
 - ・ 調査研究委員会 新井 克明（技術マニュアル）、
 宮本 悦子（Q&A）、奥石 徹、
 秋山 滋男
5. 会計監事 宮本 悦子、西園 憲郎
6. 事務局 世良 庄司、毎日学術フォーラム
 （東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル 9 階）

アンダーライン：委員長

平成 30 年度 8 月改訂

日本服薬支援研究会 会則

(総則・名称)

第1条 本会は日本服薬支援研究会と称する。

英名は、The Japan Association for Patient Support on Medication とする。

(目的)

第2条 本会は患者またはその看護に当たっている家族及び医療従事者に対する服薬支援を中心に、摂食・嚥下障害、運動障害、健康寿命、小児、高齢者、がんケア、医療安全等の分野において、薬を安全かつ効果的に投与することに関して研究し、その成果を普及させる。そして、患者の医薬品及び医療を主とした生活全般を支援することによりQOLの向上に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は第2条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 研究会の開催など、簡易懸濁法の研究・普及を含む患者の服薬支援及び医薬品および医療に関連する生活支援に関する事業
- (2) 医療・介護現場における問題点の抽出、医療・介護施設及び研究機関(大学・企業など)との連携による研究
- (3) 医療・介護施設間の連携強化による服薬支援・生活支援実施の見学幹旋業務
- (4) 国内外関係学会との連携および国際交流
- (5) 機関誌その他刊行物の発行
- (6) その他、本会発展のために必要な事業

(構成・会員)

第4条 本会は本会の目的、事業に賛同し、所定の手続きを行った一般会員、学生会員、賛助会員をもって構成する。

2. 本会に入会を希望する者は申込用紙に必要事項を記入し、研究会事務局に届け出た者とする。以上の手続きを行い、役員の承認を得た上で会費を納入した者を会員とする。

3. 会員の特典

- (1) 会員発表による研究会や、実技セミナーなどへの参加
- (2) 実施施設への見学幹旋
- (3) 疑問点・問題点の問い合わせ
- (4) メーリングリストを利用したの会員同士の意見交換
- (5) 機関誌その他刊行物の発行 など

(役員)

第5条 本会に次の役員をおく。

代表幹事 1名

副代表幹事 2名

幹事 若干名

会計監事 2名

事務局長 1名

顧問 若干名

第6条 役員の職務

代表幹事は本会を統括し、幹事会ならびに総会では議長となる。

2. 幹事は幹事会を構成し、学術研究会をはじめとする本会事業の運営方針を立案しこれを推進する。なお、会の効率よい運営のため、学術事業委員会、渉外広報委員会、財務委員会、総務委員会、生涯教育委員会に幹事若干名を置くこととする。
3. 会計監事は本会の会計を監査する。

第7条 役員の選出および任期

代表幹事は、幹事の互選により選出されるものとし、その任期は2年とするが再任は妨げない。

幹事は幹事会の推薦により選出されるものとし、その任期は2年とするが再任は妨げない。

第8条 幹事会

幹事会は必要に応じて開催するが、メーリングリストを用いてのインターネット会議も可能とする。

(部 会)

第9条

当研究会は、調査・研究等の学術事業の執行のために必要があるときは、各種の部会を設けることができる。

2. 各部会の部会長及び委員は、幹事会の承認を得て代表幹事が委嘱する。
3. 各部会の任務、構成及び運営に必要な事項は、幹事会の決議により別に定める。

(学術集会)

第10条

当研究会は、幹事会の決議を経て、学術集会を開催する。

2. 前項に規定する学術集会のほか、あらかじめ幹事会の決議を経たうえで、講演会、研究会等を開催することができる。
3. 学術集会開催にあたり、幹事会の決議をもって会員の中から学術集会大会長を選任する。
4. 学術集会大会長の任期は、前年の学術集会が終了した時から自らが主宰する学術集会が終了した時までとする。

(会計・会費)

第11条 本会の経費は会費・寄付金・その他の収入をもってこれに充てる。本会の収支決算書は会計年度終了後に事務局が作成し、会計監事の監査を受けた上で、幹事会の承認を得て会員に報告しなければならない。

2. 会員は細則に定める年会費を納める。会費は主として本会の運営に充当されるものとする。なお、会費は幹事会で議決し、決定するものとする。
3. 会計年度は毎年7月1日から6月30日までとする。

(事務局)

第12条 事務局は代表幹事のもとに、会員名簿の整理、会費の管理等研究会の運営に必要な諸事務をおこなう。
研究会事務局の所在地等は細則に示す。

(会則の変更)

第13条 会則の変更は幹事会の議を経て、会員に報告するものとする。

2. 幹事会は2/3以上の幹事の出席(委任状を含む)をもって成立し、出席者(委任状を含む)の過半数で議決される。

付則

本会則は、2019年6月1日から施行する。

細則

第1条 本会の運営に必要な事項は、この細則に定める。

第2条 細則の立案及び修正は、会則第13条により幹事会が行う。

第3条 会則第9条に定める年会費は次の通りとする。

1. 年会費は一般会員5,000円、学生会員2,000円、賛助会員一口50,000円とする。
2. 年会費を継続して2年間滞納した会員は、自動的に退会とする。

第4条 研究会事務局の所在地等

毎日学術フォーラム

東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル9階

E-mail:kendaku-office@umin.ac.jp

投稿規定

「日本服薬支援研究会誌」 投稿規定

Journal of Japan Association for Patient Support on Medication : JAPSM

1. 論文の内容

- ① 服薬支援に関するもので、研究報告（臨床研究、基礎研究、橋渡しの研究を含む）、情報提供に関わる調査研究、適正使用・医療経済等の研究、調査、解説、症例報告、ノートを含み、未発表で他誌に投稿予定のないものとする。
- ② 本誌に掲載された論文等の著作権は、本研究会に帰属する。
- ③ 動物を対象とした研究については、動物保護及び管理に関する法律（昭和48年 法律第105号）、実験動物の飼育及び保管に関する基準（昭和 55 年総理府 告示第 6 号）、大学等における実験動物について（文部省学術国際局長通知、昭和 62 年 5 月 25 日学情 第 141 号）を参照して倫理的配慮のもとに実施し、その旨を論文中に記載すること。
- ④ ヒトを対象とした研究では、世界医師会のヘルシンキ宣言において述べられているように、科学のおよび倫理的規範に準じていなければならない。被験者には、研究内容についてあらかじめ十分に説明し、自由意思に基づく同意（インフォームドコンセント）を文書で得ることが必要であり、研究課題によっては、所属施設の倫理委員会またはこれに準じるものの承認が必要である。論文中には、研究を遂行するにあたって遵守した指針（臨床研究に関する倫理指針、疫学研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針など）を明記する。

2. 投稿者の資格

投稿原稿の筆頭著者は日本服薬支援研究会の会員とする。但し、本研究会から寄稿を依頼した場合は、この限りではない。

3. 投稿論文の書き方

- ① 本文には頁をつける。
- ② 原著論文は原則として、用紙をA4判縦長とし、35字×35行で、12,000字以内とする。
- ③ 短報、症例報告は用紙をA4判縦長とし、35字×35行で、それぞれ9,000字、4,000字以内とする。
- ④ いずれの場合も、図表は1枚あたり400字としてカウントする。
- ⑤ なお、題名・名前・所属については、上記文字数に含まず、図表は名刺サイズ8点で1枚とカウントする（その他、比例計算）。
- ⑥ 原稿はMicrosoft Office製品（Word, Excel, PowerPoint）等を用途別に使いやすいもので作成し、原則として、印刷物ではなく、ファイルのメール添付にて事務局へ提出する。
- ⑦ OSはWindows, Macintoshどちらでも可。ただし、アプリケーション、OSともに投稿時点でサポートの対象となっているバージョンのものに限る。
- ⑧ 本文、図表、抄録はそれぞれ別々のファイルで作成する。
（本文ファイルに図表を組み込まない）
- ⑨ 図・表それぞれに独立した番号を振ってキャプション（図表のタイトル）を付け、本文中に言及箇所を明記する。
- ⑩ 写真（原則としてモノクロ）は、鮮明なデジタルデータ（JPEG等）を用いる。

⑪ 略語を用いる時は、最初に全語句を記載して()内に略語を記入し、以下は略語を用いる。

例：Simple Suspension Method (SSM)

⑫ 会誌委員会で、研究会誌としての統一上、術語・記号・図表の体裁を変更する場合がある。

⑬ 総説で既発表の図表を用いる時は、出典名を記入し、且つ著者および出版社の了解を得ること。

⑭ 外国の国名・人名・地名・薬品名は、英語を用いる。

度量衡の単位はmm, cm, mL, L, mg, mmol, N/10などを用いる。

⑮ 文献数は原著論文30以内、総説制限なし、短報・症例報告10以内とし、本文の引用箇所順に順次番号を付し、本文の末尾に一括して次の形式に従い引用順に記載する。

1) 書籍は、①著者名（最大6名：6名を超える場合は和文表記なら「他」、欧文表記なら「et al.」）：②論文名. ③編者名, ④書籍名. ⑤所在地：⑥出版社名, ⑦発行年(西暦)；⑧初頁 - 終頁. の順に記載する。

4. 掲載料

① 掲載料は無料とする。

② 別刷は30部贈呈するが、それ以上必要な場合は、著者校正返送時に10部単位で希望部数を朱書して申し込み、費用は著者の負担とする。31-50部は3,000円、51-100部は5,000円とする。

5. 原稿の採否および著者校正

① 投稿論文の採否は、原則として2名以上の査読者の意見に基づき、会誌委員会で決定する。

なお、採択された原稿は返却しない。

② 審査によって原稿の修正を求められた原稿は、連絡日から原則6カ月以内に再投稿する。連絡日から6カ月を経過しても修正原稿が提出されない場合は、新規投稿扱いとする。

③ 著者による校正は、初稿のみとし、校正時の原稿修正は原則認めない。再校以後は会誌委員会で行うものとする。

④ 寄稿論文は、会誌委員会から依頼することがある。

6. 著作権および著作者の人格権

① 論文の内容については、著者が責任を負う。

② 共同研究の論文の場合は、著作権法第64条第3項の規定を適用し、共同著作物(論文)の著作者の人格権を代表して行使される1名を選び、原稿論文の氏名の右上肩に"アスタリスク*"印を付ける。会誌委員会は、この著者を論文内容、その他についての実質的な代表責任者とみなす。

③ 論文が受理された場合は、著作権は本研究会に委譲する。

7. 利益相反 (Conflict of interest; COI)

著作が開示する義務のある利益相反状況は、投稿内容に関連する企業や営利を目的とする団体に関わるものである。投稿時に論文の本文末尾に利益相反状況を記載しなければならない。

具体的な内容については日本服薬支援研究会の定める「利益相反 (COI) に関する指針 (別表)」の中で該当するものを記載することとする。なお、申告すべきものがない場合は、「利益相反自己申告：申告すべきものなし」と記載すること。

8.二重投稿，盗用，および捏造に対する罰則規定

- ① 二重投稿，盗用，および捏造が認められた場合には掲載を取り消すことがある。
- ② 当該論文の筆頭著者および共著者はその後，5年間投稿禁止とする。
- ③ 著者の雇用主や所属団体への告知および調査依頼などを行うことがある。

9.原稿送付先

事務局

毎日学術フォーラム（簡易懸濁法研究会事務局）

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル9 階

E-mail : kendaku-office@umin.ac.jp

10. この規定を改正する場合は，幹事会の議を経なければならない。

付 則

1. 本規定は，2014年12月1日から施行する。

2016年8月30日改訂

別 表

「日本服薬支援研究会誌利益相反（Conflict of interest ; COI）に関する指針」

★ 著者全員の前年1年間（1月1日～12月31日）の利益相反状態について，下記の項目に該当する場合，論文の本文末尾にその状況を記載すること。

記

- ① 講演料：1つの企業・団体からの年間合計50万円以上
- ② 原稿料：1つの企業・団体からの年間合計50万円以上
- ③ 報酬額：1つの企業・団体から年間100万円以上
- ④ 株式の利益：1つの企業から年間100万円以上，あるいは当該株式の5%以上保有
- ⑤ 特許使用料：1つにつき年間100万円以上
- ⑥ 研究費・助成金などの総額：1つの企業・団体からの研究経費を共有する所属部局（講座，分野あるいは研究室など）に支払われた年間総額が200万円以上
- ⑦ 奨学（奨励）寄付金などの総額：1つの企業・団体からの奨学寄付金を共有する所属部局（講座，分野あるいは研究室など）に支払われた年間総額が200万円以上
- ⑧ 企業などが提供する寄付講座：（企業などからの寄附講座に所属している場合に記載）
- ⑨ その他：研究とは直接無関係な旅行，贈答品などの提供については，1つの企業・組織や団体から受けた総額が年間5万円以上とする

編集後記

広報学術担当 秋山 滋男, 寺町ひとみ, 岸本 真

本年度第1号を発刊するにあたり、原稿の執筆にご協力いただきました皆様、お忙しい中ありがとうございました。この場をお借りして感謝申し上げます。

研究会は簡易懸濁法研究会から服薬支援研究会へ名称及び会の運営等変更になりましたが、まだまだ、適正な簡易懸濁法の普及が必要であると痛感しています。

9月には東京の北里大学にて総会・講演会・実技セミナーが行われる予定です。また全国各地におきまして、正しい簡易懸濁法の普及のため実技セミナーが開催されており、本誌におきましてもその動きをできるだけ雰囲気もわかるような記事にして、皆様にお届けできればと思います。

また、研究会へのご意見やご要望がございましたら、簡易懸濁法研究会事務局（kendaku-office@umin.ac.jp）までメールでご連絡ください。会員の皆様の一つ一つの声を大切にしていきたいと思っています。実務に関する疑問・質問も是非メーリングリストをご活用いただければと思います。

日本服薬支援研究会（簡易懸濁法研究会）会誌

2019 vol.7 no.1

発行者：日本服薬支援研究会（簡易懸濁法研究会）
発行責任者：日本服薬支援研究会（簡易懸濁法研究会）
代表者：倉田なおみ
広報部 会誌委員会：秋山 滋男 寺町ひとみ 岸本 真
発行年月日：2019年7月1日

本誌の転載・複写についてはあらかじめ許諾をお求め下さい。

